

1 学年部研究について

視点1 事前アンケート，読みで課題を設定

対話中はカードを提示

ノートの活用 事前読みでの考えを書く

2 自評・質疑

【自評】

T1

・教材選びについて

子ども達とシンクロしている。自分のこととして考えられる。

「団七踊り」予想できた。

・児童評価

女子は声が小さい（マイクを持たせた）

F児・・・自分からあまり発言しない。今日は発言してノートに書いていた。

何か感じるものがあったのではないか。

T2

・入るタイミング

・今年赴任してきたので、他から来た人という印象があるので、考えを広げさせていきたいと思った。

【質疑】

(塩釜小 青砥先生)

Q 課題を子ども達から出させる工夫？

A 探究の対話の手法。3年目（積み重ね）

視点を与えて子ども達に考えさせる。

→意欲的・主体的に話合いができるようになる。

始めは、子ども達に教えながら

3 グループ協議

4 グループ代表発表 大鷹沢小 嶋津

【成果】

・聞く態度，話す意欲

・アンケート共有（考えを知ることが出来る）

・手紙…自分たちのことであることを実感

【課題】

・「大切だと思った。」で終わらせず，さらに深める問い返し。

・大切にすることでどのようなことがあるのか？

- ・手紙
- ・T2の役割を明確に
担任の想いをどのように届けるのか、どのようなタイミングで問い返しをするのか。

5 指導助言 宮城県大河原教育事務所 次長（指導主事） 渥美寿彦 様

- 価値理解（大切だと理解する）
- 他者理解（考えは1つではない）
- 人間理解（実現することは難しい）
- 道徳的価値（人間としてよりよく生きるため）

➡探究の対話は意図的に発問している。

【授業について】

- ・しっかり自分の言葉で発言している。
- ・事前アンケート・・・課題意識主体的に考えられた。
- ・子ども同士の熱心な対話・・・ツールキットが活かされていた。
- ・先生のかかわり→ねらいに迫るために全体像をまとめる問い返し。
- ・T2の役割
- ・子ども達の考えを深めた。
- ・手紙・・・強いインパクト。
- ・「伝統を引き継ぐ」の重きがおかれた。「よりよい学校生活」
『責任』『協力』などの発言があったので、そこをうまく価値へとつなげ集団生活の大切さにつな
げていく。
- ・あすなるノート
記述内容の充実 書く活動は大切（自分をみつめる）
変容をとらえる
他者理解へとつながる

【大切にしてほしいこと】

- ① 道徳の授業を確実に行う（週1）
着実に養われるもの
- ② 本質を見失わない「道徳性を養う」。
- ③ 共に考えていこうとする姿勢
理論・・・価値から遠ざかってしまう。
子ども達の多様な意見を受け入れ、自分も考える姿勢を大切に。